

2026年度 学校法人東京滋慶学園 埼玉福祉保育医療製菓調理専門学校
学校関係者評価委員会 議事録

●日時：2026年5月27日(水) 11:30～13:30

●場所：埼玉福祉保育医療製菓調理専門学校（埼玉県さいたま市大宮区仲町 3-88-2）5 階

●学校関係者評価委員

卒業生代表	介護福祉士科 1 期生		溝上 俊亮
卒業生代表	調理師科 2期生		川面 将平
高等学校関係者	自由の森学園高等学校	校長	菅間 正道
介護福祉士科 業界関係者	介護老人保健施設	施設長	小林 美穂
言語聴覚士科 業界関係者	いづみケアセンター		
保育士科 業界関係者	社会福祉法人宮原ハーモニー	理事長	島村 和宏
調理師科 業界関係者	株式会社ジェイオフィス東京	事業部長	鈴木 隆之
調理師科 業界関係者	埼玉県洋菓子協会 有限会社ドゥーブルシェフ	副会長 代表取締役	山本 正隆
地域関係者	大宮区仲町三丁目自治会	副会長	坪井 光男
保護者代表	保育士科(昼間主)1年生 保護者		坂下 史恵

●学校法人東京滋慶学園 埼玉福祉保育医療製菓調理専門学校 教職員

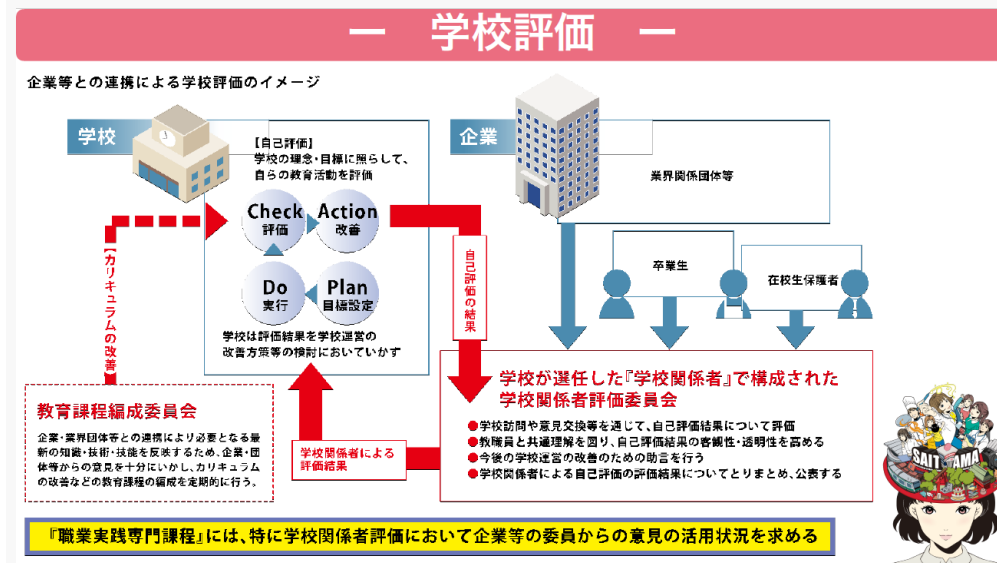
学校長	青木 猛正
副学校長	飯塚 洋一
運営本部長 兼 事務局長	結城 健二
事務局次長 兼 広報センター長	前川 雄大
教務部長	仁村 将大
介護福祉士科 学科長	田村 仁美
保育士科 昼間主・夜間主 学科長	大下 明洋
言語聴覚士科 学科長	奥山 裕太
調理師科 学科長	大西 加恵
高校センター センター長	境野 あゆみ
学生サービスセンター センター長	兒玉 あゆみ

●議題

- I. 学校関係者評価委員会趣旨説明
- II. 校長挨拶
- III. 委員紹介
- IV. 2025年度 事業報告
- V. 2025年度 自己点検自己評価
- VI. 在校生プレゼンテーション 本校の学び(言語聴覚士科、介護福祉士科、保育士科、調理師科の在校生)
- VII. 委員意見
- VIII. 閉会挨拶

I. 学校関係者評価委員会趣旨説明

2025年度の学校活動に関する自己点検・自己評価の結果を、第三者である外部評価委員に確認・評価してもらうことを目的としている。(スライドにて説明)



II. 校長挨拶

本校は福祉・保育・医療・製菓調理の分野で構成され、本年度より社会福祉士養成科を昼間課程に変更した。開校以来、実学教育・人間教育・国際教育を教育理念に掲げ、AI 時代にも対応した「人間にしかできないスキル」を持つ人材育成に努めている。また、学生や家族、高校、業界、地域との信頼関係を重視し、教育の可視化と卒業生の活躍を通じた評価獲得を目指す。

本年 4 月の学校教育法改正により、専門学校が高等教育機関として明確に位置づけられた。本校ではこれに伴い、入学資格や学生の呼称、自己評価の公表等に対応するとともに、学則を改正して「単位制」を導入し、総単位数の修得による卒業認定を行う。

本日は、前年の意見を踏まえた改善点等の報告に加え、教育成果として学生によるプレゼンテーションを行う。委員各位からの忌憚のない意見を今後の学校運営や教育活動に活かし、関係業界や地域との連携を図りながら、社会的ニーズに応える人材育成と信頼される学校づくりに組織的に取り組んでいく。

III. 委員紹介

各委員より自己紹介。

IV. 2025年度 事業報告

●広報報告

2026年度入学者総数:303名(前年度:271名)

●教育

全体在籍者数:505 名、退学者数:40 名、休学者数:4名、転科・転校:3 名

●就職

全体対象者数:234 名、卒業者数:215 名、内定者数:194 名

学校全体としては、おおむね希望の就職先が決定している状況である。

●国家試験合格率

対象学科：介護福祉士科、言語聴覚士科、社会福祉士養成科

介護福祉士：90.6%(全国平均：70.1%)

言語聴覚士：56.7%(全国平均：66.4%)

社会福祉士：85.7%(全国平均：60.7%)

<委員からの質問>

・退学者の共通している理由、多い理由は何か？

→精神的理由により登校できず、出席不足となり目的意識を喪失してしまう学生が多い傾向にある。

一方、近年は実習不適による退学者は減少傾向にある。

V. 2025年度 自己点検・自己評価報告

はじめに：今年度から6項目に集約された自己点検評価制度に基づきフォーマットの変更あり。

1)教育理念・目的・目標と職業教育のマネジメント【評価：全て3】

2)教育課程、教育の実施、学習成果【評価：学習成果項目のみ2(国試合格率、就職率に課題)、他は3】

3)学生の受け入れ・学生支援【評価：全て3】

4)教員・教育実施組織【評価：全て3】

5)教育環境【評価：全て3】

6)教育活動の基盤と情報の公表【評価：全て3】

<委員からの質問>

・退学者の理由についても多い「心のバランス」のケアについてはどう対応しているのか？

→スクールカウンセラーに週3回来てもらっている。今までは対面が主だったが、電話やメールでカウンセラーと繋がりたいという希望が増えているため、その対応をしてもらっている。

また、担任含めた教務部はカウンセラー研修を定期的に受けている。学生からのアンケートをとり、結果からアプローチ方法の検討をしている。

・各目標の達成に向けた進捗確認はどのように行っているのか？

→各項目で月毎の目標をたてており、毎月の運営会議で確認を行っている。

VI.在校生によるプレゼンテーション 本校の学びについて

●言語聴覚学科 2年生 プレゼンテーション

言語聴覚士科が「主体性」と「マネジメントスキル」を重視し、チーム医療の中核を担う人材育成を目指す教育方針を紹介した。学生主導の授業(グループワーク)、他学科連携(食べゼミ)、三学年合同の学科内行事(新入生歓迎会等)の運営事例が共有された。

学生自ら企画書を作成し、目的・目標を設定することは、臨床に通じる思考であり貴重な経験となった。また、各自責任をもって行動することにより、主体性の育成に繋がる成果となった。

●介護福祉士科 2年生 留学生プレゼンテーション

介護福祉士課の外国人留学生2名を招き、日本での学びや文化について意見交換を実施。

留学生からは「時間を守る文化」や「相手の立場に立って考える」ことの重要性についての学びが語られた。教員からは、

文化の背景や理由を丁寧に説明し、留学生を将来の介護業界のリーダーとして育成していく方針が述べられた。留学生本人も、「利用者さまがどうされたいかを考える」ことの重要性を学び、介護とは相手の立場に立つ支援だと理解し行動できるようになった。卒業後は介護現場のリーダーとなり、多職種と連携してより良い環境を作りたいと思っている。

●保育士科 2年生 プレゼンテーション

週1回保育園で学ぶこと(週1登園)で学生が自らの「保育観」を確立し、離職防止に繋がっていることが報告された。

「教科書はいらない、教室は保育園、先生はこどもたち」をコンセプトにカリキュラムが構築され、週一登園で得た経験(保育観の確立、実習への好影響)や、学年間で子どもファーストの議論をする文化が醸成されている。

また、2年生が1年生の授業に参加し、学年の壁なく保育の話ができることも良い経験となっている。

●調理師科 2年 プレゼンテーション

五感を刺激する授業の紹介と、学生による世界の料理(ロコモコ等)のプレゼン・試食提供が行われた。

教科書だけに頼らず五感中心の学びを重視。食品安全衛生等の授業に関しても体験的に理解を促進している。

また、販売実習等でインプットだけでなくアウトプットもしていくことにより、学習内容の理解が深まっている。

VII. 委員意見

(溝上委員)

職場環境が人の育成に影響する。企業も学校評価方法を取り入れて、会社としての評価をしたほうがいいのではないかと考えている。

「自分をかなえる学校」は学生だけでなく、先生たちの想いも叶えられる学校になってほしい。

(川面委員)

学生のプレゼンを聞いて、自分が学生だったころよりもしっかりしている印象を受けた。

やる気に満ち溢れているし、こういった方と一緒に働きたいと思えた。

作るだけでなく、実習を通じて人(お客様)とかかわる楽しさを学んでほしい。

(坂下委員)

学校が学生たちのことを想って作り上げていることがよく分かった。

ゴールデンウィークに教員からはがきでメッセージが届きとても感動した。きちんと一人一人を見ている様子が伝わってくる。週1登園の良さもこれから本人達に伝わってほしい。

(菅間委員)

学生が生き生きとしている様子が見ることができた。

専門学校に所属している学生は対人能力が高く、進路不安が少ないという研究がある。きちんと承認や自己信頼を得て社会に送り出す場所となっている。

(坪井委員)

学生のプレゼンテーションから、学びを楽しんでいる様子がうかがえた。そういった学生を増やしてほしい。

質問:AIの活用についてはどのような活用をしているのか?

→AIの回答がすべてはないことは伝えているが、頼りたくなる心理を否定はしていない。リテラシーの教育をしている。

(小林委員)

先生方の熱意が伝わり、学生が学びを深められている。

現場でも特定技能生の受け入れをしており、外国人の方の働きやすい環境も整いつつある。

言語のプレゼンテーションがとても印象的だった。

(島村委員)

学校として、組織として毎年変化に対する改善が早く素晴らしい。学生は今最新のことを学んでいる。
また、留学生の夢や目標をしっかり語っている姿を見ることができてこちらも考えさせられた。

(鈴木委員)

学生の発表を通して学校の取り組みがとても伝わった。

質問:留学生について、特定技能(外食)の定員上限に達している状況である。学生に対する説明やサポートはどうしているのか？

→学校側は、代替案として「製造分野での就職」「他分野での特定技能取得」「専門学校への進学」等の選択肢を提示し、個別にサポートしている。また、食分野のグループ校と協力しながら進めている。

(山本委員)

鈴木委員同様、特定技能について気になっていた。

以前はこの学園も国際部があったがなくなってしまったとのことなので、学校側の法的な学びが必要になっている時代ではないか。

また、せっかくスイーツ&カフェ・フード科ができたのに退学者が多かったのはショックだった。

VII. 閉会挨拶

今、直面している課題は、18歳人口の減少であるが、学校の課題は学生募集だけでなく、業界と連携し、質の高い人材(令和の金の卵)を育成・輩出すること。入学した学生全員の就職と国家試験合格を目指したい。
本委員会は委員の皆様と一緒に学校をつくっていく意味となるので今後ともよろしくお願いいたします。

以上